

■ J A F P E 避難安全設計法（ルートC）の標準化WG

1) 設置期間：2012年5月～2014年3月

2) 主査：山口純一（大林組）

幹事：佐藤雅史（日本建築センター）

3) WGメンバー

	氏名	所属
メンバー (五十音順)	池島由華	大成建設
	井田卓造	鹿島建設
	大宮喜文	東京理科大学
	佐野友紀	早稲田大学
	高橋 済	アイエヌジー
	竹市 尚広	竹中工務店
	田村祐介	エフディーエム
	長岡 勉	竹中工務店
	中道明子	日本建築総合試験所
	仁井大策	国土技術政策総合研究所
	萩原一郎	建築研究所
	松下敬幸	神戸大学
	水落秀木	清水建設
	水野雅之	東京理科大学
吉田俊之	明野設備研究所	
オブザーバー	山田 茂	フジタ（JAFPE 理事）

4) 活動目的および活動内容：

本WGでは、高度な手法を用いた性能評価（ルートC）の円滑な運用を目指し、現状の課題の整理（運用的側面、技術的側面、その他）を行った上で、より好ましい性能評価を行うための具体的な方法を提案・実施することを目的として行う。

①運用ガイドラインの作成

現状の避難安全検証（または業務方法書）に基づく評価は、物件ごとの高度な判断（エキスパートジャッジ）を前提としているため、その判断根拠や改善すべき課題が共有されず、同様の問題や指摘が何度も繰り返される傾向にある。本来、一般性の高い問題や指摘は、評価機関（評価委員、指導課を含む）、防火技術者、設計者および建築主らに周知され、その情報は常に共有されることが望ましい。その役割を担うのは業務方法書であるが、現在の業務方法書は一般論的な内容となっており、性能評価で問題となる階段の配置、防火シャッター等の信頼性、避難開始時間

などの具体的な評価方法については言及されていない。そこで、業務方法書を補完し、評価機関と防火技術者、設計者および建築主ら相互の情報共有と合意形成を促進し、さらに性能評価の透明性を高める役割を担う運用ガイドラインの作成を行う。

②避難開始時間等の標準的な計算法の検討

上記運用ガイドラインでは、避難開始時間等の標準的な計算法の提案、および告示計算法の適用範囲についても言及する。また、避難上好ましい計画（例えば二方向避難の確保）などがプラスに評価される仕組みを提案する。